

「ライブの凄さ」

今の時代は、インターネットで検索すると、興味のある写真や動画を見ることができます。しかし、スマホやタブレットなどの情報は、実際に見たり聞いたりする体験(ライブ)から得られる情報には量的にも、質的にも遠く及ばないということを実感した1学期でした。

例えば、九州工業大学の小田部教授による液体窒素を落ちいた実験、NPO法人「ちくほう共学舎 虫の家」事務局長 高石さんによるハンセン病の講話、「中学生の未来に贈るコンサート」での九州交響楽団の演奏など、いろんな体験をすることができました。



教授の巧みな話術と中学校では体験できない高度な実験の数々に感動しました。授業開始の挨拶と同時に英語で講義が始まり、「研究内容が難しすぎて日本語でも英語でも分からないだろうと思って♪」とお茶目な教授。液体窒素を床にまき散らしながら、 -196°C で気化することや窒素は有毒だと空気中の80%が窒素であることなどを興味深く教えてくださいました。テレビで見たことのあるような、お花やバナナを液体窒素につける実験では、事前に予想をたてて検証を行いました。

「バナナを液体窒素に入れて凍らせる」

→予想:トンカチのようにバナナで釘が打てるようになる

→結果:液体窒素を使って凍ったバナナで釘を打とうとすると、一瞬でバラバラに碎ける!

(令和6年6月14日発行 1年生学年通信 11号より抜粋)

ハンセン病は、「らい菌」によっておこる微弱な感染症で、手足や顔面などの外見に変形や知覚マヒ・運動マヒを起こすこともあります。「らい菌」はとても弱い菌なので、乳幼児期にたくさんの菌に触れない限り感染することはほとんどありません。感染し、発病するかしないかは、自己免疫(抵抗力)の強さで決定するともいわれています。また、発病しても適切な治療を行えば確実に治る病気です。

(高石氏 「知ってますか? ハンセン病問題」より抜粋)

ハンセン病やハンセン病問題の歴史、ハンセン病問題は、まだ終わっていないことなど、たくさんの学びがありました。

※高石さんは私設資料室「杉野ハンセン病資料室」を小竹町に開設されています。



コスモスコモンの前方に筑穂中学校、中程に穂波東中学校、後方と2階に飯塚第一中学校が座る配置でした。開始前はそれぞれの学校が他校の様子が気になったようで、落ち着いた様子でしたが、最初の演奏曲、交響組曲「ドラゴンクエスト」序曲が流れ始めると、九州交響楽団の方々の演奏に集中している姿がとても印象的でした。九州交響楽団の素敵な演奏と指揮者である梅田さんの軽快なトークを前方で堪能(たんのう)することができ、とても充実した70分でした。

2学期も、本物と出会う体験学習を計画しています。楽しみにしていて下さい。